

基準4 教育課程・学習成果(教務部)

関連委員会	副学長、学部長、学科長、教務部、教務委員会、AI・DS教育センター、英語教育開発センター、教職センター
関連部署(事務部門)	修学支援室、IR・広報室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則、大学統一DP、カリキュラムポリシー

基準に関する課題(令和6年度)

- (1) 教育の質向上。
- (2) 学修成果の可視化。

1 令和6年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

- (1) ①適切な成績評価の実施を推進する(授業間の評価格差の検証)。【教務部長、修学支援室】
- (1) ②オンデマンド型授業の効果検証を行う。【教務部長、修学支援室】
- (1) ③副専攻の教育を充実させる。【副専攻の運営委員長、修学支援室】
- (1) ④英語教育を充実させる。【英語教育開発センター】
- (1) ⑤教職支援を充実させる。【教職センター】
- (2) アセスメントテストの活用を推進する。【教務部長、修学支援室】

2 具体的計画(PLAN)

- (1)①GPA制度をふまえた成績評価基準のあり方を検討、実施する検討する。

- (1)②オンデマンド型授業と対面授業の成果を授業評価アンケートをもとに検討する。

(1)③副専攻「AI・データサイエンス」

- a.実践型AI・データサイエンス教育の推進(「AI・データサイエンス実践」「観光マーケティング調査」における県内企業による実データを用いた特別講義および「AI概論」における大手IT企業による特別講義の実施)
- b.文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベルと応用基礎レベル)」再認定に向けた教育内容の充実(副専攻2025カリキュラム科目の構築と各レベル修了要件の改訂)
- c.学修支援(相談会の前・後期各複数回開催と「ITパスポート」資格取得対策講座の継続)
- d.高大連携の強化(敬愛学園高校に加え県内公立高校への出前授業と探求授業支援の実施)

(1)③副専攻「エアポートNARITA地域産業学」

- a.学修支援(修了要件の一つであるマイクロソフトMOS資格の早期取得のアドバイス、3年次のインターンシップ参加者増に向けての、成田空港関連企業・組織の協力によるセミナーや見学会の設置、学生主体の活動推進)
- b.成田国際空港関連企業・組織との連携強化(空港見学会や企業・組織からの講義、講演の実施)
- c.成田空港周辺地域との連携強化(周辺自治体、国土交通省との連携等)

(1)③副専攻「日本語教員養成課程」

- a 日本語学習支援者養成、日本語教員養成の両プログラムの教育内容の充実化を図る。
 - ①日本語教員養成関係省令を基準とした確認
 - ②11月実施の「日本語教員試験」(基礎試験)の出題傾向・難易度の分析を行い、本学養成課程の教育内容が基礎試験の水準を満たすことを確認
- b 日本語を中心とした外国人支援に向き合う姿勢は、本学園の「敬天愛人」の理念に合致するものであり、養成課程の教育活動でも常にこの姿勢作りを重視して行う。
- c 登録日本語教員養成機関に向けた作業を進める。これにより、養成課程修了者は国家資格取得上試験免除等の極めて有利な措置が受けられる。
- d すべての受講希望者が在学中に修了できるよう各学部との調整を進める。教職課程履修者の受講希望者は増加しており、養成課程を持たない他大学教職課程との差別化を図れる。
- e 国内外の日本語教育関連就職希望者は増加傾向にある。専門性が高い職種であるため、在校生・既卒生の別なく、就職支援をきめ細かく行う。

(1)④4技能にわたる総合的な英語力向上のため、英語科目における言語活動を充実させるとともに、授業外での学習を可能にするeラーニングを充実させる。また、(TOEIC® L&R IPテストのスコア分析を行って成果と課題の把握に努めるとともに)英語の資格・検定試験に向けた集中講座を実施する。

(1)⑤教職支援を充実させる

a. 教採対策

教採1次2次選考対策講座の企画運営、外部委託講座の選定、教採受験説明会、講師登録、大学推薦(教採合格者数や合格率の高い水準を維持し、さらに向上させる)

b. 教員養成

実習校訪問、教職個人面談、採用前研修会、教職課程特別講演会、英語科・社会科の中高教員養成の充実(熱意と人間味があふれ、指導力のある教師の育成)

c. 教職卒業生への支援

教職交流会の事務局、年次大会の企画運営、非常勤講師に対する教採支援(学び続ける教師の輩出と卒業後のサポート)

(2)アセスメントの活用にあたっては、学修成果の可視化にもつなげられるよう次の点において検討を行う。

①DPの学修目標に対して、学生自身が自らの学びの成果を自覚し、説明できるようにすること。

②アセスメントテストを含め、複数の情報との組み合わせにより、大学の教育改善へつなげる仕組みづくりを全学的に取り組むこと。

3 取組状況(DO)

(1)①学部教育の特徴をふまえたうえでのGPA制度の適用について審議し、前期の成績評価の際に実施した(教育学部ではSとAの比率を40%以下にはしなかった)。

(1)②オンデマンドで展開するにふさわしい科目についての議論をすすめている。

(1)③副専攻「AI・データサイエンス」

a 2024年度前期に、県内企業を含めた2社により「AI・データサイエンス実践」(全15回)を実施し、「観光マーケティング調査」は県内企業による千葉県観光データを用いた実践例紹介を予定(後期15回目)。「AI概論」は例年通り大手IT企業による特別講義を4回実施済み。

b 副専攻2025カリキュラム検討会により再認定に向けて検討中。

c 2・3月にeラーニングを含め全30回の対策講座を予定。d 系列高校3回に加え、県内公・私立各1校で実施済み。

(1)③副専攻「エアポートNARITA地域産業学」

a. 学修支援(MOS資格の早期取得に関し、5月開催の学生ミーティングにて、取得済みの3年生に資格取得のコツについて話をしてもらった。また、3年次のインターンシップ参加者について、キャリアセンターと連携しながら就業先を把握し、適宜アドバイスを行った。学内外で計5回の学生ミーティングを開催した。)

b. 成田国際空港関連企業・組織との連携強化(日本航空の新規事業についての講義を伺い、8月初旬に成田空港周辺に出かけ、空港や航空会社の新規事業、成田地区の輸出入の動きについて学ぶ学外研修を実施した。他大学とも連携し航空関連企業とのネットワークを強化している。)

c. 成田空港周辺地域との連携強化(周辺自治体、国土交通省との連携等)、授業とも連動し、後期も学生ミーティングで直接話を伺う機会を設けていく。

(1)③副専攻「日本語教員養成課程」

具体的計画に掲げたa~eについて、現在の取り組み状況は以下のとおりである。

a,c⇒令和6年度「登録日本語教員養成機関」申請を学校法人として決定し、現在12月の事前相談に向け、修学支援室と養成課程主任(長谷川)で申請書類作成中。

b⇒「登録日本語教員養成機関」申請時に本学の日本語教員養成の理念・意義を説明する際、建学の精神「敬天愛人」を基本として記述する。

d⇒綿密な調整を図るため、不定期開催だった「日本語教員養成課程委員会」を月例化した。

e⇒現在、副専攻「日本語教員養成課程」ホームページを受験生と在校生への情報発信の中心に位置づけ、IR・広報室と共同で全面的に改訂する作業を進めている。

(1)④英語教育の充実

- a. 『College English I~IV』を中心に、習熟度別クラスによって、学生の英語力に応じた言語活動を展開している。
- b. 『College English I・II』の履修学生全員を対象に外部機関と連携してeラーニングを実施し、授業外での英語学習を可能にしている。
- c. 前期末8/31にTOEIC@ L&R IPテストを実施し、過去10年間との比較分析を行うとともに、8/28-9/3に「夏期集中TOEIC L&R対策講座」を実施した。

(1)⑤教職支援を充実させる

a. 教採対策

- ・教採1次2次選考対策講座の内容と運営を一新した。外部委託講座を精選した。
- ・大学推薦者の水準維持に努めた。
- ・教採は、過去最高値となる良い結果を収めた。

1次→中高 英語5名合格1名不合格(5/6)、社会全員合格(3)

小学校 全員合格(49)。

2次→中高 英語5名全員合格5/5(国際4, 教育1) 社会3名全員合格3/3(経済3)

小学校 千葉県千葉市46名合格2名不合格46/48、東京都1名合格1/1

※2次合格率→中高英語100%、中高社会100%、小学校95.9%(合格者数47/49)

東京都の受験合格率は6年連続100%(合格者数/受験者数)

b. 教員養成

- ・各事業を滞りなく実施できている。

c. 教職卒業生への支援

- ・各事業を滞りなく実施できている。教職交流会年次大会は昨年度の規模を超えて11/23(土)に実施する予定。

(2)現在実施しているアセスメントテスト(GPSアカデミック、Prog)の継続の必要性につき各学部教務委員会で審議することにした。さらに、2025年度より学習活動の可視化を組織的に取り組むため、各学部から教員を選抜したうえでタスクフォースを新設する。

4 点検・評価(CHECK)

(1)①GPA制度をふまえた成績評価基準のあり方について、学部教育の特徴をふまえて授業間の評価格差を審議しており、前後期とも適切な成績評価を推進・周知している。SとAの比率が40%を超えた科目に関しては、担当教員に理由を報告してもらった。

(1)②オンデマンドで展開する科目にあたっては、各学部の教務委員会で効果検証を行った上で、教務部委員会で承認をとっている。なお、特定の科目につき、効果検証を行った。

(1)③副専攻「AI・データサイエンス」

a. 地元企業と連携した実践型授業「AI・データサイエンス実践」(前期全15回)と「観光マーケティング調査」(後期1回)および大手IT企業との連携授業「AI概論」(前期4回)をすべて実施した。いずれも受講生アンケートで満足度が高く、特に今年度初開講の「AI・データサイエンス実践」は学生により授業評価が4.44と高評価であった。

b. AI・データサイエンスセンター内に「副専攻2025カリキュラム検討会」を立ち上げ、文部科学省がMDASH(「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」)の再認定で、リテラシーレベル・応用基礎レベルのそれぞれに新規追加した要件を満たすカリキュラムを構築した。その際、リテラシーレベルは、全学必修となる「AI・DSへのいざない」の内容を改訂して本科目のみで修了要件を満たすようにし、応用基礎レベルも、修了要件である資格取得には費用がかかるため、「AI・データサイエンス実践」または「社会調査実習」を代替可能科目とした。また副専攻受講生が計画的に履修できるように、カリキュラムマップと資格説明一覧表を新たに作成した。

c. 学習支援として、国家資格「ITパスポート」取得対策講座(全10回)をeラーニングと対面・zoomの組合せにより実施した(12月~2月)。受講生(19名)が途中から減少し固定化した問題を改善するため、全講座終了後に受講生と全学生を対象にアンケートを実施した。相談会は、前期2回実施したが、後期ゼロで、各期複数回実施を達成できなかった。

d. 高大連携の強化として、データサイエンスをテーマに系列高校1校で計3回(全1年生対象に1回と2年生生理系クラス対象に2回)の授業に加え、新たに県内公立高校と私立高校各1校でいずれも2年生対象にそれぞれ1回の模擬授業と4回の指導を実施した。

(1)③副専攻「エアポートNARITA地域産業学」

a. 学修支援(修了予定者には、早期からMOS資格の取得について確認を行い、未取得者には取得を促した。1~3年の学生にも引き続き資格の早期取得を奨励。履修者へは全8回の学生ミーティングを実施。)

b. 成田国際空港関連企業・組織との連携強化(NAA、JALによる特別講義を含む。他大学とも連携し、空港及び航空関連企業とのネットワークを強化。)

c. 成田空港周辺地域との連携強化(国土交通省関東運輸局及び関東地方整備局の千葉県内の事務所長からの講義、就職イベントやNAA主催の成田空港 合同企業説明会への参加を学生に促すとともに、人事担当者から就業状況及び採用情報を収集した。)

(1)③副専攻「日本語教員養成課程」

具体的計画に掲げたa～eについて、現在の取り組み状況は以下のとおりである。

a,c⇒令和7年度第1回「登録日本語教員養成機関」申請に向け、修学支援室と養成課程主任(長谷川)で申請書類の最終確認中。

b⇒「登録日本語教員養成機関」申請時に本学の日本語教員養成の理念・意義を説明する際、建学の精神「敬天愛人」を基本として記述した。

d⇒綿密な調整を図るため、不定期開催だった「日本語教員養成課程委員会」を月例化し、報告事項の共有と審議事項の協議を行った。

e⇒副専攻「日本語教員養成課程」修了生の活躍を取り上げ「敬愛人」において記事を公開した。

(1)④英語教育の充実

a. 習熟度別クラス展開による教育効果

・新たに習熟度別クラスとした『College English III・IV』、学部別にクラス設定した『Debate I・II』等で、学生の英語力や特徴に応じた効果的な指導が可能となった。

・『College English III・IV』履修の2年生が実用英語技能検定(英検)1級に合格(本学初)。

b. e-ラーニングによる授業内外での英語学習機会の拡充

・設定した週課題を超えて主体的に取り組む学生がいた一方、授業外での学修が習慣化しなかった学生も少なからずいた。各クラス担当教員による指導を強化する必要あり。

(参考)『College English I・II』混合Sクラス35名の内、eラーニング課題達成率80%以上の学生:12名(34.3%)

c. 外部英語テストによる現状・課題分析

・8/31実施TOEIC L&R IPテストは受験者126名(昨年度120名)、平均値356.7(昨年比+18.6)、2/3実施同テストは受験者128名(昨年度138名)、平均値368.(昨年比+5.6)、2/3実施TOEIC Bridge L&R IPテストは受験者36名(昨年度39名)、平均値42.2(昨年比+1.3)で、全体的に昨年度よりやや上昇。

・国際学部2年生がTOEIC L&R IPテストで2回連続で990点満点獲得したことは非常に大きな成果。

(1)⑤教職支援を充実させる

a. 教採対策

教採1次2次選考対策講座の企画運営、外部委託講座の選定、教採受験説明会、講師登録、大学推薦(教採合格者数や合格率の高い水準を維持し、さらに向上させる)

b. 教員養成

実習校訪問、教職個人面談、採用前研修会、教職課程特別講演会、英語科・社会科の中高教員養成の充実(熱意と人間味があふれ、指導力のある教師の育成)

c. 教職卒業生への支援

教職交流会の事務局、年次大会の企画運営、非常勤講師に対する教採支援(学び続ける教師の輩出と卒業後のサポート)

(2)教務部委員会において、学習成果の可視化タスクフォースの提言にそうかたちで、今後のアセスメントテストのあり方を検討した。アセスメントテスト(GPSアカデミック、Prog)について、2025年度より学習活動の可視化を組織的に取り組む(システム導入)ことを踏まえ、次年度以降の継続(現在1・3年次実施)の有無に関して、各学部教務委員会で審議を依頼した。経済学部・国際学部は、現在実施の“GPSアカデミック”を次年度は3年次のみで実施し、2025年度のシステム導入以降は実施しない方向である。教育学部は、次年度も1・3年次で“Prog”を継続することとし、今年度は学部のFD研修会等で活用している。

5 次年度のACTION PLAN

(1) ①さらなるGPA制度の徹底化をはかり、全学的に適切な成績評価の実施を継続する(授業間の評価格差の検証)。

(1) ②特定の科目だけでなく、体形的な効果検証方法を検討して実施する。

(1) ③副専攻「AI・データサイエンス」

- a. 本学におけるAI・データサイエンス教育をさらに充実させ、応用基礎レベルの修了者を増やす
- b. 企業との連携を継続する
- c. 高大連携をさらに進める
- d. 学習成果の測定や評価の仕組み作りに取り組む

(1) ③副専攻「エアポートNARITA地域産業学」

- a. 学修支援(カリキュラムについての検討の継続、MOS資格の早期取得奨励の継続、新規履修者への告知と3年次インターンシップ履修登録指導、成田空港関連企業・組織協力によるセミナーや見学会の開催、学生主体の活動推進)
- b. 成田国際空港関連企業・組織との連携強化(空港見学会や企業・組織からの講義、講演の実施、NAA、JAL、ANAグループとの連携強化、成田空港活用協議会との連携の具体化)
- c. 成田空港周辺地域との連携強化(周辺市町、千葉県、国土交通省との連携等)

(1) ③副専攻「日本語教員養成課程」

- a⇒令和7年度第1回「登録日本語教員養成機関」の申請を行い、事前相談、書面審査、面接審査等に向けた準備を進める。
- b⇒国の「登録日本語教員養成機関」へ移行することについて、大学における教育課程の位置づけや意義の周知を図る。
- d⇒在校生に対する周知を充実化させるために、履修ガイダンスや説明会などを強化する。
- e⇒国家資格「登録日本語教員」取得に関心のある学生たちへの対応(相談、受験準備サポート等)を丁寧に行う。

(1) ④英語教育の充実

- a. 学生の総合的な英語コミュニケーション能力を向上させるための指導・評価(英語科目担当教員FD研修会の実施)
- b. 英語科目の習熟度別クラス、学部別クラス編成による効果的な言語活動の展開
- b. eラーニングを中心とした英語学習機会の拡充(授業での指導と授業外学習との効果的な連携)
- d. 全体、学部別、学年別の英語力の現状・課題の分析(TOEIC L&R IPテスト、TOEIC Bridge L&R IPテスト、TOEIC L&R対策講座の実施)

(1) ⑤教職支援を充実させる

教職支援を充実させる

(2) 学習成果の可視化タスクフォースの検討結果に注視したうえで、教務部委員会においても今後のアセスメントテストのあり方を検討する

以上